

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504153		
法人名	有限会社 ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	札幌市白石区北郷5条9丁目8-33		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170504153&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1人を大切に 支え合う心 安心して暮らせる社会づくり」との法人理念のもと、日々のケアを利用者の気持ち、心を中心に展開しています。1人1人の利用者が満足してすごしていただけるよう、ご本人ご家族ともしっかり話し合い、共に生活をつくっています。また、地域の方々にも力となっていけるよう、町内の中での活動なども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し、前庭には花畑や菜園があり、利用者の安全と快適さに配慮して造られた家庭的な雰囲気のある事業所である。当事業所の特徴と優れている点は主に7点あげられる。「理念」に沿い管理者及び職員は利用者一人ひとりの心に寄り添い、利用者本位の質の高いケアを行なっている。若年性認知症の利用者を受け入れ、個々の状態を把握しながら適切な支援をしている。実習生を受け入れ、教育現場としても機能しており、代表者は認知症についての長年の経験を基に研究・指導し、職員は専門性・資格も高く日々研鑽している。医師、看護師の連携による医療体系が充実しており本人、家族の希望によるターミナルケアを行い終末期支援できる体制を整えている。家族会を開催し、家族連絡ノートなどで連携を密にとり、家族の意向や意見を尊重し家族の信頼を得ている。運営推進会議は定例に開催し、地域包括支援センター職員、地域代表、家族が参加して事業所運営報告、認知症研修、災害対策等について活発に討議し、会議の内容は運営に反映させている。地域との関係については地域住民としての双方向の自然な交流のなか、災害対策では協力を期待できる関係にあり、同地区の3ヶ所の系列グループホームと互いの特色を活かしながら協力し、「安心して暮らせる社会づくり」の為地域の高齢者福祉に貢献している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそったケアを実施している。ケアについては必ず、理念を根拠としている。	法人理念、ホームの目的、ケアの理念をわかりやすく明示している。理念は事業所内要所に掲示し職員間で共有しサービスの実践に日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、地域の方との交流を図っている。まずは挨拶から気をつけ、地域の中でお互いに支えあえる様交流している。	町内会に加入し行事に参加している。畑仕事、ゴミだし、外掃除などのおり挨拶を交わし又認知症について相談を受ける等双方向での交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方や町内の方で、何か困ったことがある方に対していつでも相談を受けている。また、地域のボランティアグループを総合施設長が介護予防センターと共に立ちあげている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ホームでの取り組みをお伝えする中で、地域での取り組みや沢山の実践について参加者よりうかがい、次のこのホームでの実践に生かしている。	会議は定例的に開催し事業所運営を報告すると共に防災対策について働きかけ委員の意見や助言を運営に活かしている。区社会福祉協議会、地域包括、町内会役員、家族が参加している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	総合施設長と市との連携がとれており、サービスの内容については御理解いただいている。何かあるたび、担当者との連携をはかっている。	行政とは日頃から連絡を密にとり連携をとっている。市の連絡会議へ参加し又市依頼の各種研修実習生受け入れを行い協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、(虐待も含め)社内で研修を行い、周知徹底をはかっている。また、日々のケアの中で、確認をしている。	身体拘束について研修を行い認識を共有し、一人ひとりの状況を捉え拘束のないケアを実施している。玄関は日中施錠せず安全に配慮しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、身体拘束・虐待についてまず日ごろのケアをふりかえった。グレーゾーンのケアにあたるのかどうか、日々のケアについて検討し、より本人の意向に沿ったケアであるよう、つとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解はそれぞれの範囲で行っている。また、必要と思われる利用者に対しては利用を支援している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明をし、理解・納得を得ている。また、随時話し合いをもうけている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、日ごろから御意見をうかがえるようにしている。また、家族の方にはノートを作成し意見や質問等記入いただくようにしている。	家族会の開催や日頃の面談、家族連絡ノートで家族の意見を受け止め対応している。意見箱を設置し内部苦情相談担当者及び外部苦情相談窓口を案内している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから日ごろの仕事に関してもる話を伺うようにしている。	運営者、管理者は各種会議等で職員の意見を聞く機会があり、職員の意見や意向は全体的な運営に活かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを利用し、今のスタッフ1人1人の目標、仕事の上でのモチベーション、現在の課題等話し合いを設けている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外と研修を1人1人にあわせ受けている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して、また区内のケア連絡会を通じ、同業者との交流する機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何に困っているのか、どう困っているのか等必ず伺い、不安が少なくなるよう入居前から面談等行い入居していただくようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っていることや不安なことなど、必ず伺い入居日を不安が少なくむかえられるよう取り組んでいる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要であるのか、必ず見ていくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活が本人の意向により沿っているのかどうか、という視点でいつもケアに取り組んでいる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の支えのなかで、必ず家族でしかできないことを家族に支えてもらう。また、家族がここでの暮らしの中でより本人に沿ったケアをしていけるよう助言してもらい共に取り組んでいる。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との相談のもと、本人が必要としていることに対して支援している。	利用者の行きたい所、会いたい人を聴き、家族と相談して希望を叶えている。「通夜」への付き添い支援や僧侶の月参り居室訪問があり来訪者には本人と共にゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が必要としている関わり合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の利用するサービス機関には必ず情報提供し、終了後も必要に応じて相談に応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、本人の意向をどれだけキャッチするか、という視点でアセスメントを進めながらケアに取り組んでいる。	日常の会話や動作、家族情報を参考にしながら個人記録やアセスメント表を活用して本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人の方をよく理解させてもらうためにも、病気になった前後、困難だったこと等知るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状況が日々変化するため、必ずケアをする際変化がないかどうか、そしてどういった状況であるかアセスメントしながら取り組んでいる。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からは来訪されると随時話を伺うようにしており、今の本人にとって必要なケアについて話をしている。また、本人の状況を把握したことについて記録を読んでもらい、情報を共有したうえ、ケアプランを立てる。	本人、家族の意向を尊重し医師、看護師の意見を取り入れ、担当者、計画作成者、職員、関係者が会議で検討して作成している。状況に合わせてモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で気づきを記入している。また、情報を共有するためのノートにて情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な支援を、ホームだけで抱えず様々なサービス機関や様々なところから情報をもらい、1人の方を支えるためにケアを展開している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人の方の持つ資源を有効に活用できるよう、家族とも相談し協力いただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それまで受診している病院での受診や、本人が納得できる医療機関での受診また、往診としている。	本人、家族の希望するかかりつけ医や専門医とは相談、診療できる体制をとっている。提携医療機関の医師とは月2回の往診の他必要時にはいつでも対応できるよう連携をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時気付いたこと、心配なことを看護職員に相談している。特に急を要する場合夜中でも対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際、必ず早期に退院できるように話している。また、入院中も本人が混乱が深まらないよう家族とも連携をとり必要な支援を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、家族としっかり話し合いをもっている。また、地域の中でホームでの取り組みについての情報公開をしている。本人の意向にそい、必要なケアを行っている。	本人、家族の意向を入居時に話し合い文書で確認している。状況に変化が生じた時は医師、看護師、家族、関係者と情報を共有し、連携を取り、家族の意向を確認しながら支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時についてのマニュアルがあり、その熟知につとめている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行っている。また、地域の中で、協力を得られるよう体制を作っている。	年2回消防署協力の下夜間も想定し町内会役員や近隣住民、利用者、家族も参加して避難訓練を実施している。地域の協力を得られる体制作りをしている。	災害に備えての防災グッズを用意し、防火対策については室内を整備し日々自主点検を行っている。スプリンクラーの設置が予定されているので期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の思いや、それまでの暮らし生活を大切に、対応をこころがけている。	人格を尊重し誇りを傷つけない接遇を行い、個人情報記載の書類保管には細心の配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアをする際、それでいいかどうか尋ねたり、本人が決定できるよう何うようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状況を見て、その時に必要なことを必要なペースでケアできるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それまでの暮らしに沿い、本人がうきうきできるよう支援できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が喜んで食事に向かえるよう、工夫している。	利用者の好みや嚙下状態に配慮したバランスの良い食事を提供している。力量に応じて手伝い、職員と共に食卓を囲む食事は楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の1人1人の摂取状況を把握し、1人1人の必要としている支援の基提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄のパターンを知り、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	動作、表情、排泄記録などから個々の排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけ、誘導してトイレでの自立排泄に繋げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の状況に応じてケアを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるよう、また体の負担とならないよう、ケアを行っている。	週2回以上の入浴を基本としているが一人ひとりの希望やタイミングに合わせていつでも入浴できる。浴室の安全、清潔に配慮してゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動と休息のバランスが取れるよう工夫したり、1人1人の様子を見ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬については内容を知り、それぞれの内服方法にしたがっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のそれまでの生活を基に、今楽しめること、今できること大切にしたいことを中心に生活していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>1人1人のしたいこと、行きたいところをご家族と一緒に相談しながら支援している。</p>	<p>その日の天候や体調に配慮しながら菜園造りや近隣散歩を行なっている。花見やドライブなど家族とも相談しながら本人の希望に添えるよう支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要に応じて行っている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>通信の支援を1人1人の状況に応じて行っている。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1人1人の空間に対する認知能力をみて、必要に応じた対応を行っている。</p>	<p>リビングは明るく、共有空間は利用者の安全と快適さに配慮されている。多目的部屋があり家族の集まりや会議に使用することができる。温度、湿度、採光、換気も良好で清潔で静かな室内環境が保持されている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれが心地よく暮らせる空間作りを検討し、行っている。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今必要としているものや、安心して過ごせる空間となっているか検討しながら居室のしつらえを整えている。</p>	<p>居室には使い慣れた家具や仏壇を持ち込み家族写真を飾るなど一人ひとりの生活暦と個性を尊重した雰囲気になっている。収納スペースもあり程よく整頓されている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できること、わかること、に焦点をあてた建物になっている。</p>			